

いつも減量は

みんなの力です！



暮らしが豊かになるに従って増え続けるごみの量は深刻な社会問題になっていきます。わたし達が生活していく上で必ず出るごみ。毎日、田野倉の大月都留広域事務組合の処理場に運び込まれるごみの量は四十七トンにもなります。ごみやし尿を処理する組合の運営経費は、大月市、都留市の負担金でそのほとんどが賄われています。平成二年度この負担金は約八億六千万円に上ります。一人当たり一万三千円負担した計算になります。ごみの中には、よく考えれば資源として立派に役立つものが多くあります。たとえば、古新聞や雑誌などの古紙は、再生紙として利用され、同じように新聞や雑誌、ダンボールなどに生まれ変わります。家庭で出る新聞一年分（七〇キログラム）をごみ処理した場合、約千六百円の費用がかかります。しかし、古紙として利用すれば、直径二〇センチ、高さ八メートルの立木一本半を切らずにすみます。これは、地球の緑を守ることもなるのです。

暮らしが豊かになるに従って増え続けるごみの量は深刻な社会問題になっていきます。わたし達が生活していく上で必ず出るごみ。毎日、田野倉の大月都留広域事務組合の処理場に運び込まれるごみの量は四十七トンにもなります。ごみやし尿を処理する組合の運営経費は、大月市、都留市の負担金でそのほとんどが賄われています。平成二年度この負担金は約八億六千万円に上ります。一人当たり一万三千円負担した計算になります。ごみの中には、よく考えれば資源として立派に役立つものが多くあります。たとえば、古新聞や雑誌などの古紙は、再生紙として利用され、同じように新聞や雑誌、ダンボールなどに生まれ変わります。家庭で出る新聞一年分（七〇キログラム）をごみ処理した場合、約千六百円の費用がかかります。しかし、古紙として利用すれば、直径二〇センチ、高さ八メートルの立木一本半を切らずにすみます。これは、地球の緑を守ることもなるのです。



大月都留広域事務組合の一般廃棄物処理施設が田野倉地区に設置するにあたり、環境整備協定が取り交わされ十年が経過しました。
三月二十九日、田野倉地区環境整備協議会、組合、大月市、都留市の四者により協定の更新が行われました。



▲ 大月都留広域事務組合ごみ処理場